

## 第 2 回四万十市立小中学校再編検討委員会における主な意見等

平成 28 年 11 月 15 日  
第 3 回 検 討 委 員 会

## 【主な質問と回答】

- 「現状と課題」「考慮すべき事項」など 8 年前（現在の計画策定時）と特に変わった点はあるか。⇒学習指導要領の改訂に伴う新たな課題や部活動の問題などを重点課題として取り上げている。
- 学級数・通学距離について、法令等による国の基準を満たさなくてもよいか。⇒数字（基準）だけで再編を考えていくことにはならないと考える。地理的条件など四万十市の実情を考慮し、本市の望ましい学校規模を検討していただくことでよい。
- 大規模改修等の計画はどうなっているか。⇒3 5 年までの年次割計画に基づき実施してきたが、再編計画も踏まえてもう一度精査をしなければならないと考えている。

## 【主な意見等】

- 基本的な考え方（「再編の必要性」「考慮すべき事項」等）については、会議資料のとおりでよい。
- 具体的な再編計画、再編実施時期など「たたき台」があれば議論が進むと思う。
- 会議資料のとおりでこれ以上のものはない。これをどのように校区、地域に対して説明していくのが重要である。
- 適正規模や通学距離について、文科省の基準はあくまでも目安であるので、四万十市の現状について検討していかななくてはならない。
- 中村と西土佐の学校が統合するのは課題がある。
- 中村小と田野川小の統合では、学校同士が事前に交流を行うことで、地域の合意も得られスムーズに統合できた。
- 遠距離で統合した場合、スクールバスの運行上、放課後は友達と遊べない。地域でも近くに友達がいらないということも。地域で子ども同士が遊ぶことができる距離というものも考慮する必要がある。
- 団地の造成計画等で児童生徒数の推計値は大きく変わってくる。
- 学校支援地域本部事業と学校再編はリンクさせながら進めていくべきと思う。
- 小中学校 9 年間の間に 2 回の統合を経験すると子どもの負担は大きくなるので考慮が必要と思う。

- 2回の統合は経験させないということについて、小学校、中学校それぞれで2回の統合はさせないということだと思います。
- 複式学級は、学年をこえたつながりなど生活面ではメリットもあるが、先生の負担は大きく、子どもたちも落ち着いて勉強できないなどの心配がある。
- 複式学級は、1年生と6年生には適用すべきではない。
- 中学校では体育等の教科を1年生から3年生まで一緒にやる場合があるが、1年生と3年生では差があり難しい面がある。

#### **確認・決定事項**

- ◎ 児童生徒数の将来推計、小規模校の課題の顕在化などから学校再編は必要である。
- ◎ 「基本的な考え方（必要性、考慮すべき事項、小規模校のメリット・デメリット）」については会議資料記載のとおりとするが、今後、具体的な再編計画を検討していく中で、必要があればその都度修正等を行う。
- ◎ 「2回の統合は経験させない」ということについては答申に盛り込む。小中9年間で2回とするのか、小中それぞれで2回とするのかは今後審議する。
- ◎ 次回（第3回）の会議では、具体的な配置計画図などの「たたき台」を基に、具体的な再編計画について審議する。
- ◎ 今後、当会の活動内容を市ホームページや広報誌で公表していく。内容は会議資料にある名簿や会議録の要約などを掲載する。